

豊かな首都 弱者冷遇

報われぬ 負担の 負担

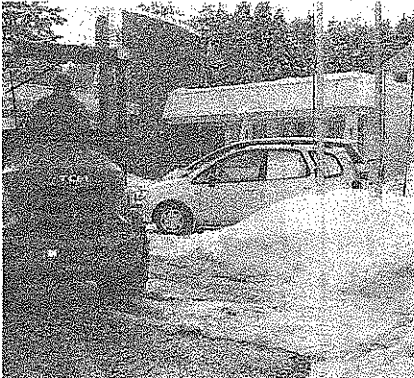
元日の昼、東京都中野区に住む今村明美さん(76)は福島県白河市郊外の焼肉店にいた。家族連れで遊び込む店内で、長男(49)が大好きな肉をつまみながら、夫の孝さん(79)とじゃじゃんで遊んでいた。

14県に40カ所

障害者の都外施設は青森や長野、岐阜など14県に40カ所あり、東京都から約2500人が入る。土地の値段が高い都内では施設用地を確保しにくい。1960年代後半から地方につくられるようになった。

長男は小学生の時に校舎から転落し、左半身と脳に後遺症が残った。いまは福島県西郷村にある知的障害者の施設で軽作業をしながら暮らす。「都外施設」と呼ばれ、約80人の入居者のうち9割が東京都民だ。

月に一度の面会日には、父の介護もあり、自宅では世話ができません。それが、それから約30年がたつ。「勝ち組」の街で、弱者の声はかき消されてきた。



闇に囲まれた知的障害者の施設。東京から遠く離れた北国で暮らす障害者がいる。1月27日、秋田県北秋田市、西井泰之撮影

都外施設

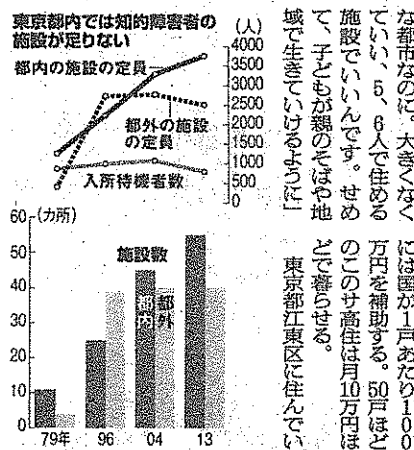
心細いのは、遠く離れて暮らすだけでなく親も子も年をとっていくことだ。入居者で最高齢の人は80代になる。「元気がうちは会いに行けるのだけれど、私たちが死んだ後、山里で一人ずつと暮らすんじゃないか」。施設は古く、もともと高齢化にも対応していない。長男は10畳ほどに三つのベッドを置いた3人部屋にいる。狭いうえ、廊下などの壁の一部には東日本大震災でできた亀裂が残る。夜は職員が3人。国の基準を満たしているが、年齢も障害もさまざまな障害者を支えるのは足りない。「入れたばかりのいい、と思うたんですけど、12年9月に長男(38)が入居した主婦(56)には不満が募る。

3年ほど都内の施設などを探したが、どこもいっしょ。福島で1人入れるというので申し込んだが、競争率は十数倍にもなった。「東京は日本でも最も豊かな都市なのに。大きくなっていい、6人で住める施設でいいんです。せめて、子どもが親のそばや地域で生きていけるように」。東京から約700キロ離れた秋田県北秋田市の山あいに四つの都外施設がある。「阿仁かきほり苑」では18〜75歳の約80人が暮らし、今年9月の入居率は半割が満員だった。親が亡くなったたり高齢で世話できなかったりするからだ。

地元の視線も厳しくなった。親が亡くなると、高齢の障害者への医療費は地元自治体の負担になる。「負担が増える、将来どうするんだ、とお荷物になるのか」と言われて、施設の関係者は頭を垂らせた。

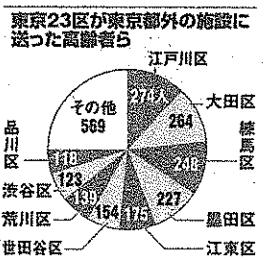
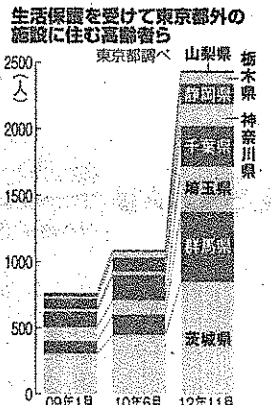
高い入居料金

茨城県南部にある市の住居地に、築2年の3階建て建物がある。見守りなどのサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)だ。建てる際には国が1戸あたり100万円を補助する。50戸ほどのこのサ高住は月10万円ほどで暮らせる。東京都江東区に住んでいる



都内の受け入れ 遅れる取り組み

又推進費も上乗せしている。それでも都内に施設をつくるより負担は少ない。都内では土地代や職員の人員費などが高いからだ。都は「一人権を重視している」と批判された。だが、97年を最後に都外施設の建設を止め、国の方針もあって05年から都内に小規模施設を増やし始めた。だが、取り組みは遅れ、いまも約8000人が施設への入居を待つ。生活保護の高齢者が都外の施設に入居する問題では、東京都保護課は「特別養護老人ホームの空きを待つ一時的なもの」と説明する。生活保護の自治体負担分は「紳士協定」で、住んでいた都内の自治体が続いている。だが、高齢者の3分の1は都外の暮らしが2年を越えれば、茨城県つくば市の担当者も「調査しよう」としても、指導権限がないことを理由に拒まれることもある。虐待や不正請求の温床になりかねない」と言う。



生活保護高齢者2500人、やむなく移住

男性(76)は、ここに入ってから約1年がたつ。居酒屋などで働けなくなり、生活保護を受けて一人暮らしをしてきた。持病が悪化したのを機に江東区に勧められたのがこのサ高住だった。「区内には生活保護の範囲で入れる施設がほとんどない」と区の担当者は説明する。都内では月20万円かかる施設でも、茨城からはエクスプレスに乗って半分で済む。江東区で生活保護を受ける高齢者の97%が、都外の施設に住む。「ここは食事をしたら寝るだけ。新宿には友達もいるので戻りたい」。同じく生活保護を受けて茨城県内の有料老人ホームに入る男性(71)は、住み慣れた新宿に帰りたいという。転入不足の脅かされたのを機に茨城にやってきた。

都内の自治体から生活保護を受けているのに都外に住む高齢者は、12年11月で約2500人に達している。「サ高住の入居者を調べたら、23区で生活保護を受けている人はばかり。うちの市民はほとんどいなくなっている。東京から電車一つかかる施設でも、茨城よりはエクスプレスに乗って約50分の茨城県つくば市。市の担当者は中心部のサ高住を見てため息をつく。3年前には、いきなり10棟ほどのサ高住の建設計画が申請された。市は東京で生活保護を受ける高齢者の受け皿でしかないと考え、すべてに持ったをかけた。高齢者向けにタクシー代やおむつ代などの一部を補助する対象からも、高齢者施設の入居者を外した。「オリンピックを間余裕があるんだから、都内に弱者を受け入れる施設をも

「報われぬ国」は原則として月曜日朝刊に掲載します。ご意見をメール(keizai@asahi.com)にお寄せください。